

富士河口湖町



教育センターだより

平成 23 年 3 月 4 日

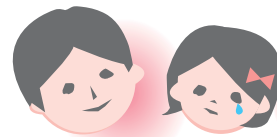
日だまりに春を見つけることが多くなったこの頃です。それと同じくして、花粉を撒き散らす杉林。大罪の木のように言われますが、杉は太古の頃から地に根を広げてきたのです。私たちの生活が変わり、野太く生きる心身がいつの間にか脆弱になったのではないのでしょうか。マスクは外菌防止ということで、常時つけている人も最近では珍しくありません。予防することは大切です。その一方で、抵抗力減退という事実もあるようです。私達大人は、様々な危険から子どもを守ろうとします。親になればなおさらです。しかし、その愛情は、子どもが自らを守る力、戦い挑む力を減退させているのかもしれない。相反する二つの関係に、人はいつも板ばさみです。



新聞の記事から

先日、新聞に目を引く記事がありました。「他者との距離の取り方に悩む子どもが増えていく。子どもたちが懸命に空気を読もうとするのも、背後に対人不安があるからだ。他者とつながる力をどう育てるのか…」学校は勉強するところですが、それ以上に子どもが集団で暮して成長する場所でもあります。学校は子どもが人間社会を生きるための土台をつくって行くところなのです。

しかし、学校に足を踏み入れることができなくなってしまった子どもはどうしたらいいのでしょうか。どこで社会を学んでいけばいいのでしょうか。教育センターに通ってくる子どもがいます。傷ついた心をかかえています。しかし、いつかは社会に出て行かなければなりません。背中を押してやるタイミングは難しいです。相談員の先生方の細やかな苦勞、所長の大きな懐が要です。学校以外にも子どもの行く場所があることは心強いです。富士河口湖町の教育に対する理解の深さだと思います。



あっという間に、1年が経ちました

3月16日(水)の運営協議会をもって、今年度の大きな事業が終わります。今年度は既存の事業の充実発展と教育センターの活動を町民の方々に知っていただくことに力を入れてきました。センターだよりの配布、広報での活動内容の提示、有線放送でのお知らせ等、いろいろ試みてきました。これからも啓蒙活動には一層の力を入れていこうと思います。相談員の先生方はたくさんの研鑽をつんでいながらも、とても気さくで一緒に悩み考えてくれます。行動すべきときには、一緒に動いてくれます。心の石を軽くしてくれます。これからも、相談したい人がもっと気軽に尋ねることができるように、工夫していきたいと思っています。少しでも町民の方々のお役にたてるように努めていきたいと思っています。

